

夢追い人

印刷を通じて、地域から信頼され 必要とされる会社

今回の夢追い人は、(株)プリンティングコガの太田さんにお話を伺いました。

地域の特徴を
活かす印刷

(株)プリンティングコガは大正十年創業。「今年が創立九十八年目です。法人化したのが平成二年です。四月決算の為、元号が令和に変わり、法人化して三十期目になる節目で、代表取締役に就任しました」
現在の社員数は二十七名。

株式会社 プリンティングコガ
代表取締役 太田 完志 さん

大川市をメインに柳川市、大木町でお仕事をされているとのこと。十一月からは筑後市に営業所を設置され、みやま市にはみやま総合印刷(株)というグループ会社もあるそうです。

「みやま総合印刷では、みやま市を中心に仕事を行っています。今年筑後市に営業所を設立したことで、筑後市や八女市も開拓したいと考えています」

プリンティングコガの全社員の中でデザイン関係の仕事をされている社員は、全体の三分の一以上になるとのことです。

「デザイン・企画編集などの前工程の方が、印刷や製本等の後工程より、より多くの時間がかかるため、多くの人材が必要になります。また、当社の強みは、企画・デザインから印刷・製本までを自社で一貫

生産できることだと思っています。このため、納品も早く、お客様の急な変更依頼にもスムーズに対応できます。印刷に関しても、スピードが大事だと考えています。市報等の広報誌は、数万単位の冊子を一日で印刷しなければならぬので、自社に設備や組織力が必要になります」

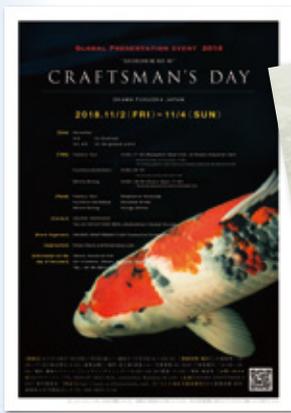
それ以外にも、大川にある印刷所ならではの強みもあるとのこと。

「家具のカタログは、木目の微妙な色合いや風合いを出すことを要求されます。そういった微妙な調整は、ネットでは当然無理ですが、当社ではこれまでの実績もあり、お客様が求められる色合わせ、色調整の技術があります。その他、九〇cm幅の家具を画像処理で、一二〇cmや六〇cmの家具に修正することも要求されます。これも、当社の技術



会社の外観





プリンティングコガで印刷した冊子やポスター



カラー4色印刷機

これからを見据えて

の一つです」

大川市近辺では数少ない自社工場での作業が可能なプリンティングコガ。ただし工場を持つということは、その分のリスクも伴うともお話しされました。

「印刷業界が不況の中で、経営が厳しくなっても家族だけだったなら、ある程度対応ができます。しかし社員が多数いる中で、社員の給料を下げながら、人数を減らしながら、というわけにはいきません。社員のための給料はきちんと確保し、将来に備えて内部留保もしておかなくてはなりません。自社工場があつて社員がいればいるだけ、そういった部分はシビアになりますね」

しかしこれから見据えたとき、若い方を迎えたという展望もお話されました。「若い層をもっと厚くして、最終的には四十人くらいまで社員を増やしたいと考えています。ただ最近の若い方は給料よりも休みがあることを重視されるので、完全週休二日制にする体制づくりを始めたというも考えています。うちは出遅れてしまっていますので、早急に体制を整えたいですね」

今後は新規事業にも取り組んでいきたいとお話された太田さん。

「新しいことを始める時は、我々の世代より、若い人の方が新しい発想で、今後の社会の変化に対応できる、いいアイデアが出てくると思います。その為にも、積極的に若い人を入れて、将来の会社を支えてくれる様な人材に育成していきたいと考えています。それ以外に、四十代後半から五十代以上に集中している社内の人員構成を根本的に改善する必要があります」

また、筑後営業所の設立で仕事は増えると思いますが、現状の技術による売上げアップを図っているだけでしかありません。現状の売上が低下し、さらに印刷通販の台頭により価格破壊が進み、印刷会社にとって非常に厳しい状況です。今までの印刷が変わる何かしらの新規事業をやつていかなければならないと思います。そういった時代の流れに沿っていくためにも、新たな技術を持った人材も入れていく必要があると考えています」

地域に必要とされる会社

プリンティングコガだからこそできる印刷物があるともお話された太田さん。

「一般的なパンフレットの他にも、企画力が必要となる記念誌作りにも自信があります。小さな印刷会社ではなかなかできない、大きな印刷会社で

は手を出しにくいような、ノウハウや技術力が必要な仕事をこなせることは当社の強みだと考えています」

企画力を養うため積極的に取り組まれたこともお話しされました。

「自社の技術力や知識だけでは足りない部分を補い、企画力の技術や知識を得るために、デザイン・企画コンペの際には、福岡市内のデザイン・企画会社と協力して、積極的にコンペに参加しています。企画会社は、デザインやコンセプトを決めることにおいてはプロです。何度も組んで企画提案を行う中で、色々と勉強させて頂き、必要な知識や技術を学んできました」

また、印刷会社は、お客様（企業やお店）から言われたものを作るだけではないけないと思います。「お客様の想いを形にする」提案ができるように、今後とも社員皆で努力していかなければならないと考えています」

これからのことをしっかりと見据えられている太田さん。代表取締役となり、会社に対する意識も変わられたそうです。「昔は自分本位で、もっと給料が欲しい、こういう車に乗りたいとか、そういうことを考えていました。倫理法人会で学んでいることもあり、今は『社員みんなが居てくれて、



社員集合写真

それで会社が回っている」という考えに変わりました。代表取締役就任した時には、まず社風の改善が必要と思ひ、社内でも『どうせ』という考えは捨てて欲しい、会社は必ず変わるから、私が変わるから』と伝え、企業理念を掲げました。会社は、社員みんなのものです。社員とその家族の物心両面の幸福を追求していきたいながら、社員全員がこの会社についてよかったと思ってもらえるような会社にしていきたいと思います」

では、そんな太田さんの夢はなんでしょうか。

「まず地域社会から信頼され、必要とされる会社になることです。十年後には、県南地区でトップの印刷会社を目指しています。しかし、最も重要なことは、社員とその家族のみんなが、本当に幸せになることです。これが、私の夢です」